

---

# 願病

七紙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

願病

### 【Zコード】

Z3578M

### 【作者名】

七紙

### 【あらすじ】

現代社会において、携帯はもつとも優れた情報手段であり、もつとも身近な機器である。

ネットワークを介した犯罪”願病”撒き散らす犯人を追い詰め、逮捕せよ。

人を殺す、ネットワークシステム。

願いを叶える、ネットワークシステム。  
どちらも同じで、どちらも違う。狂ったように見てしまつ。使つてしまつ。

悲しいほどに依存している、それはもう恋人同士がするように、物に対する中毒のよっこ、重く苦しい病のよっこ。  
薬

## 依頼（前書き）

この小説を見て、楽しんでいただける方は多少やんている方が多いと思いますので、お気をつけを（笑）  
気分を悪くするほどリアルな描写は、書かないといつよりは書けないため、安心して、見てください。

文学としては、拙いし、あまりうまく書けていないと感づるので、大きな寛大なお心と少しダークな気分で読んでみてください。

私に依頼してきたのは、長身で聰明な印象を受ける、30代半ばの男性だった。どこの教授といつても、通りそうな印象を一眼見ただけで受けた。

私の探偵家業というのは、自己紹介をかねて言うと、父親の開業した探偵事務所が始まりだった。父は、最初は探偵家業がうまいわけではなかつた。どちらかというと、浮気捜査を主にしていて、父としてはそこまで誇れる人物ではなかつた。しかし、すごいのは父親の人脈だった。警察官のトップの補佐と飲み友達として何度も小学生ながら、捜査談義を何度も聞かされたわからないし、地元駅近くの商店街では、ほとんどの人が顔見知りで、異常なほど人気があった。探偵家業から帰つてくるたびに、野菜、果物、肉、魚、日常に必要な食品は、商店街の人が当時4人家族だった私の家では到底食べきれない量をいつももらつてきていた。私が生まれるずっと前には、父は地域で一番のイケメンで考えられないほどもてていたらしい。本人の自称なので信用はしていないが・・・

話が長くなりそうなので割愛

今は、私一人で探偵家業を行つてはいる。家には、今年高校生に成つたばかりの妹がいるのだが事務所をプライベートは別にしてあるので、ここ数週間からは帰つていない。仕事を立て続けに、唐沢のヤツに押し付けられたせいだ。

唐沢というのは、高校のときの同級生で唯一親友と恥ずかしげなく呼べる男である。体格は、レスラー並みに「こつく、髪の毛は剛毛のせいもあつて、短く刈り込んでいる。20代前半だというのに深い印象を受ける男だ。その影響なのか和風・和柄なもの好み、茶道、三味線、書道をたしなみ柔道・剣道も得意とする本人からすれ

ば普通だと思つていいようだが、始めて見る人は度肝を抜かれるほどつまい。刑事課に配属されてからは、出世ロースを順当に進み今では軽侮にまで昇進した。異常な若さというのもあってあまり上のかたがたからは気に入られてはいないようだつたが。まあ、ほとんどが俺もかかわっての合同捜査によつて解決の糸口がわかつてゐるものが多いためアイツは壁にぶつかると俺によく”依頼”という形で捜査協力という大義名分の下堂々と解決策を聞いてくる。別に嫌いではないからいいのではあるのだが。

### 余談に流れやすいのでそちらに割愛

依頼してきた男の名は桂木亮一といつ名前だつた。

飯沢家に住み込みで、住ませてもらつて居候だといつ。依頼の内容は最近奥さんの様子や、娘さん一人の様子がおかしいらしい。様子のおかしくなつてしまつた原因を突き止めてほしいといつ内容だつた。

内容だけ聞いてみると、迎え入れたときの興奮と陽気混じりだつたモチベーションが下がつていくのを感じた。依頼内容がくだらないようだつたら、さつさと追い返してしまおつと考えていたときだつた。

「似ていました・・・」

聞き取れるかわからぬくらいの小さな声でそうつぶやいた。

「あの目は私の父と同じ目だつた！あんな目はおかしい！だつて、そうじやないかもう終わつたはずなんだ。あんな目をしていちゃいけない。あんな目を持っているやつを許しちゃいけない。殺さなきや。俺が死んでしまうんだから。」

徐々に怒鳴り声に近くなつていき、言い終わつた後は抜け殻のようにしょぼくれた様子のままうつむいていた。

「あなたのお父さんは、昔なにあなたにされたのですか？」  
できるかぎり、胸の中の興奮を抑え、声色を変え、親切を装つた

様子で聞くと男は安心したのか話を再開し始めた。

「父親は、酒に弱いくせにしようと酒を飲んで、暴れて、拳句の果てには、薬にまで手を染めて、反論なんてものをしようと動かなくなるまでよく殴られました。」

依頼人の愚痴を聞くのはここからが捜査を始めるのだという不可思議な高揚感に襲われる。至福の瞬間だ。内容がくだらなくても、一言一句覚えようと耳を必死に傾ける。

「そのときの田と、今の奥さんとお嬢さんの田がよく似ているんです。何とかして、助けてあげたいんです。力になってくれませんか？」

懇願し、頭をたれている彼をみながら私は、「依頼を引き受けましょう、後に正当報酬をいただきますね。」開いた同行と口の端がつりあがった笑みを隠すことなくきつぱりと言つた。

## 依頼（後書き）

長々とじだらだらした文だと思つので多少のことは「」勘弁を  
これから少しずつ、なれて、更新率を上げてたくさん書いていきた  
いと思うのでよろしくお願ひします。  
暇な方はまた訪れてみてくださいね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3578m/>

---

願病

2010年10月11日03時22分発行